

エグゼクティブサマリ

今年1月に、Facebookの日本国内のユーザ数が1,000万人を越えたとの発表がありました。これはmixiの1,500万人に迫る数字です。またGREEやDeNAの携帯SNSも、それぞれ3,000万人を越えるユーザ数を公表しています。いまや大多数の国民が何らかのSNSに参加し、インターネットで情報交換を行いながら日々生活を送っていると言えるでしょう。しかし、必ずしも伝えたい情報のみが伝わるわけではありません。例えばアメリカでは、父親が娘の妊娠を知る前に、総合スーパーから娘宛にマタニティ用品のクーポンが届くという「事件」が報告されています。これはサイトが正当に取得できる購買履歴などのデータ解析で得られた情報を利用したもので、ユーザの行動を先読みし、良かれと思って行われた、いわば善意に基づくものでした。

インターネットを安心・安全に利用しながら日々の生活を送るためには、悪意を持った第三者による攻撃に備えることはもちろん重要です。そして、本人が必ずしも意図しない情報を把握する行為が日常的に行われているということも理解しておく必要があります。その一方で、悪意による迷惑行為や犯罪行為をできる限り排除しつつ、インターネットをより便利に利用し続けられるような環境を整備する努力も続けられています。

本レポートは、このような状況の中で、IJがインターネットというインフラを支え、お客様に安心・安全に利用し続けていただくために継続的に取り組んでいる様々な調査・解析の結果や、技術開発の成果、ならびに、重要な技術情報を定期的にとりまとめ、ご提供するものです。

「インフラストラクチャセキュリティ」の章では、2012年1月から3月までの3か月間に発生した主なインシデントを時系列に並べ、分類し、月ごとに概要をまとめると共に、期間全体での統計と解析結果をご報告します。また、対象期間中のフォーカスリサーチとして、不正アクセス禁止法改正の経緯と内容について、DNS Changerと呼ばれるマルウェアの挙動と対策について、及び、Ghost Domain Nameの脆弱性の問題について、それぞれ解説します。

「メッセージングテクノロジー」の章では、過去65週間の迷惑メールの長期トレンドを示すと共に、2012年1月から3月までの直近13週間の迷惑メールの割合の推移と主要送信元地域の分布の推移を示します。また技術動向として、送信ドメイン認証技術の1つであるSPFの普及状況と、既存の送信認証技術を利用してメールの受信側に詐称されたメールを、どう扱うべきかの方針を示すための仕組み「DMARC」について解説します。

「技術トレンド」の章では、今後様々な分野で重要性を増していくであろうインターネット計測と、それによって得られるビッグデータの解析と意義について解説し、このような「データの時代」に発生する新たな課題や、データから得られる情報や知識に対するリテラシのあり方について考察します。

「インターネットトピック」では、2011年6月8日に実施されたWorld IPv6 Dayの成功を受け、標準でIPv6対応が行われている状況を目標に、2012年6月6日に行われるIPv6 LaunchというIPv6導入促進イベントの概要を説明し、関係各方面での取り組みについてご紹介します。

IJでは、このような活動を通じて、インターネットの安定性を維持しながらも、日々改善し発展させて行く努力を続けております。今後も、お客様の企業活動のインフラとして最大限に活用していただくべく、様々なソリューションを提供し続けて参ります。

執筆者:

浅羽 登志也(あさば としや)

株式会社IJイノベーションインスティテュート 代表取締役社長。株式会社ストラトスフィア 代表取締役社長。1992年IJの設立と共に入社し、バックボーン構築、経路制御、国内外SPとの相互接続などに従事。1999年より取締役、2004年より取締役副社長として技術開発部門を統括。2008年6月に株式会社IJイノベーションインスティテュートを設立、同代表取締役社長に就任。2012年4月に株式会社ストラトスフィアを設立、同代表取締役社長に就任。